



内閣府

記者発表資料
発表後の取扱自由

平成30年2月22日
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

観光客へのわかりやすい移動支援情報提供サービスの 実現に向けた提言について

- ・沖縄総合事務局では、今後も増加が見込まれる訪日外国人を含む観光客の移動手段の利便性向上、安全・安心の確保を目的として、昨年8月～9月に交通結節点や観光地等で、移動等に関するニーズ調査を実施し、バスなど公共交通での移動方法および行き先等の移動支援情報についてニーズが高いことを確認しました。
- ・上記結果を受けて、昨年11月～12月に観光客の円滑な移動支援に資するICT等の新技術を用いた情報提供サービスの利便性等を検証する実証実験を行いました。
- ・これらの実証実験の結果報告および沖縄県内における移動支援のあり方について、助言・提案等を頂くことを目的に、今年度10月より沖縄の観光・交通等に詳しい有識者からなる観光客移動・防災支援情報提供サービス実験 アドバイザー委員会（委員長：神谷大介 琉球大学准教授）を、計3回開催しました。
- ・このたび、「観光客へのわかりやすい移動支援情報提供サービスのあり方」について、委員会より提言がありましたのでお知らせします。

※ 提言書および別添等の資料は、下記アドレスに公開しております。

URL : <http://www.dc.ogb.go.jp/road/index.html>

問い合わせ先
内閣府沖縄総合事務局
開発建設部道路管理課
担当者：課長 砂川、課長補佐 那覇
TEL：(098) 866-1915
FAX：(098) 861-9928

観光客へのわかりやすい移動支援 情報提供サービスの実現に向けた提言について

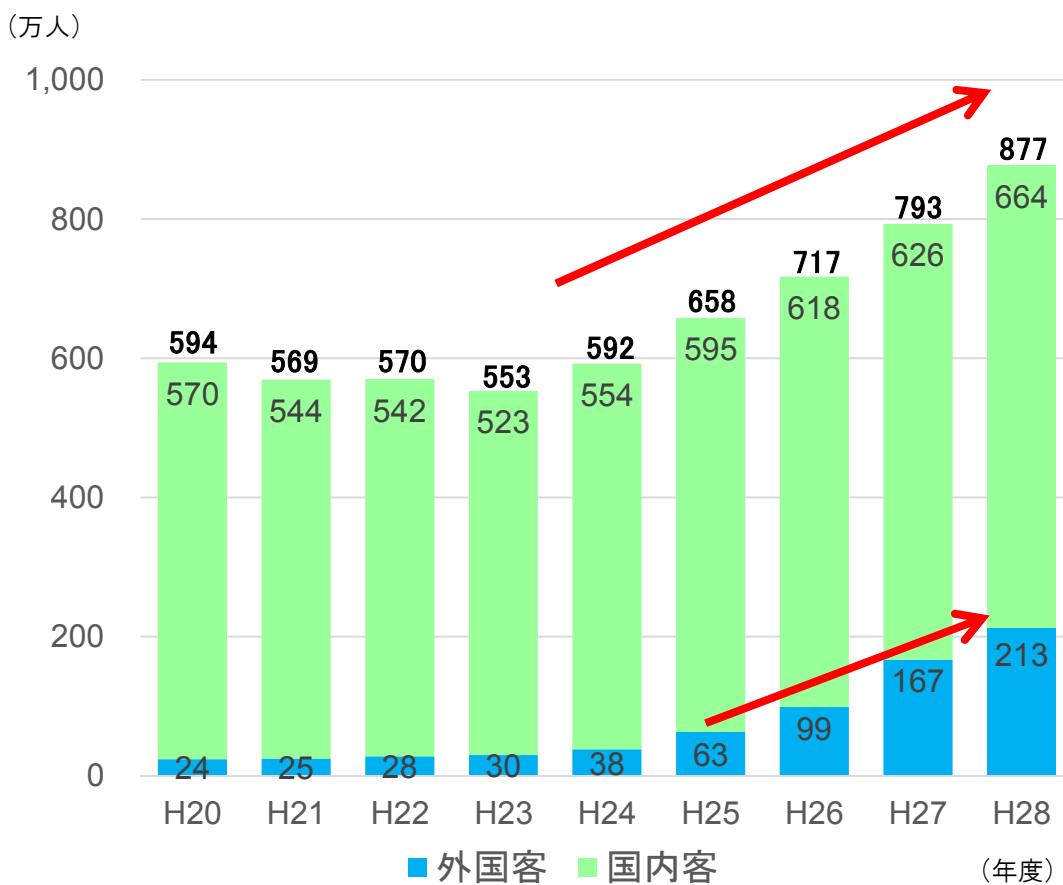
平成30年2月22日

沖縄総合事務局
観光客移動・防災支援情報提供サービス実験 アドバイザー委員会

1. 背景	P.02
2. 目的	P.10
3. 観光客移動・防災支援情報提供サービス実験	
3.1. 実証実験の概要	P.12
3.2. 実証実験の聞き取り調査結果	P.15
3.3. アドバイザー現地視察での意見	P.16
3.4. 平常時・災害時の移動支援における背景・課題再確認	P.17
3.5. 実証実験のとりまとめ	P.18
提言(観光客へのわかりやすい移動支援情報提供サービスの実現に向けて)	P.19

1. 背景 沖縄県の入域観光客数の推移

- 沖縄県の**入域観光客数は過去最高を更新中**。特に訪日外国人の伸びが大きく平成28年度は前年度27.5%増(213万人)
- 沖縄県では、H33年度までの**入域観光客数の目標**を1,000万人から**1,200万人に上方修正**



出典:入域観光客数調査結果(沖縄県HP)を元に作成

沖縄観光目標フレーム改定案

(目標値は2021年度まで)	新目標値	現行目標値
入域観光客総数	1,200万人	1千万人
観光収入	1.1兆円	1兆円
観光客一人当たりの消費額	9万3千円	10万円
平均滞在日数	4.46日	5日
人数泊(延べ宿泊者数)	4,152万人泊	4,027万人泊



那覇空港内



那覇空港外
(レンタカー送迎バス待機状況)



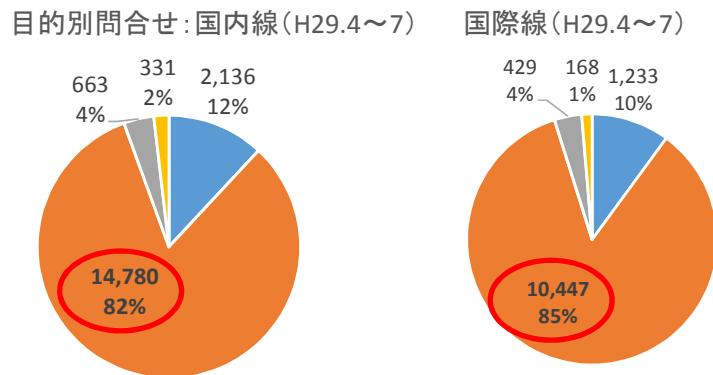
レンタカーエリア

1. 背景 交通結節点の状況

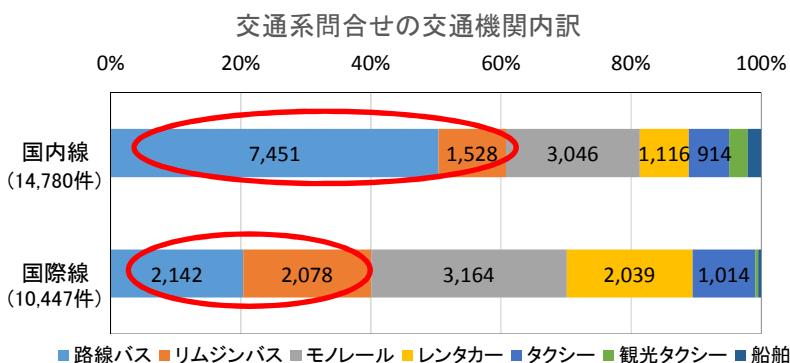
- 観光客からの交通系に関する問合せが増加しており、特に**交通結節点**では今後その対応が課題
- 那覇バスターミナルのリニューアル[H30年度開業予定]、那覇空港ターミナルの拡充[H32年目標]等の**交通結節点の整備**が進行中

那覇空港案内所 問合せ内容(沖縄県資料)

- 国内線、国際線ともに8割以上が交通系に関する問合せである。
- バス関係(路線バス、リムジンバス)に関する問合せが最も多い。



■ 本島観光案内 ■ 交通系 ■ 宿泊 ■ 食事



那覇バスターミナル整備
[H30年度開業予定]

出典: 旭橋都市再開発株式会社HP
<http://www.asahibashi.jp/plan-7.html>



那覇空港ターミナル施設拡充
[H32年目標]

出典: 沖縄総合事務局開発建設部 那覇空港滑走路増設事業
<http://www dc.ogb.go.jp/kaiken/3434/11917/011538.html>

(那覇バスターミナル 仮設案内所)



(ピーク時)



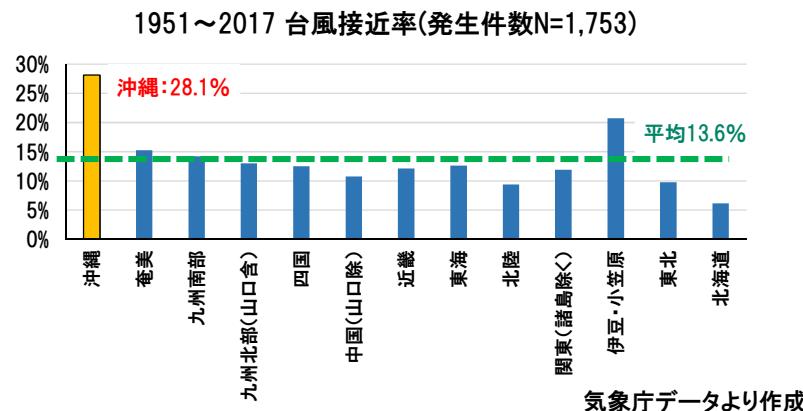
(観光客への案内)

- 沖縄県は国内有数の台風の常襲地域であり、過去約60年間で約30%の台風が接近している
- 近年は最大風速の早い「非常に強い」「猛烈な」台風が増加傾向にある
- また、琉球海溝・沖縄トラフによる地震災害の発生や、太平洋沖の地震による津波災害が懸念

台風の実績

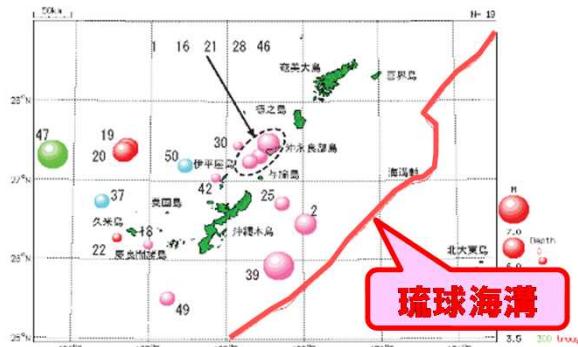
※接近：対象地点の半径300km以内に台風の中心が入ること

■各地域別の台風接近率内訳

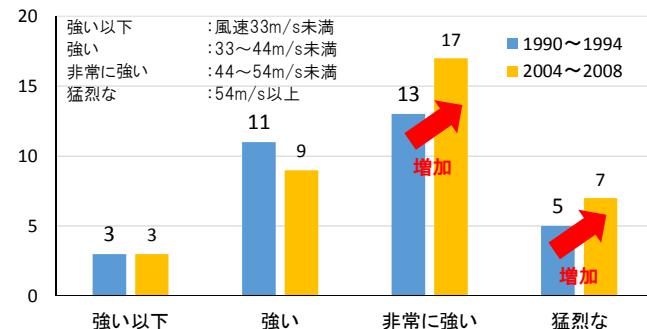


地震・津波の実績

■沖縄本島周辺における震度3以上の地震発生状況

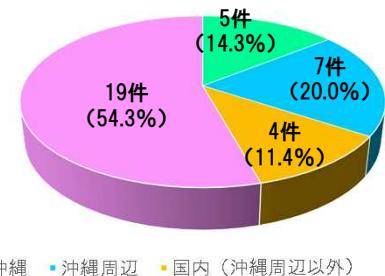


■沖縄に接近した台風の強さ



■沖縄で津波が観測された地震

沖縄で津波が観測された地震(震央) (1960年～2012)



1. 背景 移動に関する観光客ニーズ(調査概要)

- 主要交通結節点・観光地にて、**観光客の平常時・災害時の移動支援に関するニーズ調査を実施**
- 約1,500件のグループからヒアリング回答を得られた
- 外国人830件、日本人668件。外国人では、台湾が最も多く、次に韓国、中国本土であった
- 尚、外国人の国別において、**特徴的な傾向の違いは見られなかった**

調査日 : H29/8/19(土)~9/1(金)

調査箇所 : 交通結節点(5箇所)※1、観光施設(5箇所)※2

ヒアリング回答数

調査箇所	外国人						日本人 計	合計
	台湾	韓国	中国 本土	香港	その他 海外	計		
交通結節点(5箇所)※1	231	135	128	62	76	632	338	970
うち那覇バスターミナル	57	32	54	21	50	214	251	465
観光施設(5箇所)※2	74	54	17	17	36	198	330	528
合計	305	189	145	79	112	830	668	1,498
構成比	20.4%	12.6%	9.7%	5.3%	7.5%	55%	45%	-

※1 交通結節点(5箇所)… 那覇バスターミナル、名護バスターミナル、
那覇空港(国際線・国内線ターミナル)、那覇空港駅(モノレール)、
那覇クルーズターミナル

※2 観光施設(5箇所)… 海洋博公園(美ら海水族館)、首里城、
玉泉洞(おきなわワールド)、アメリカンビレッジ、道の駅「豊崎」

(観光客ニーズ調査状況)

[那覇バスターミナル]



[名護バスターミナル]

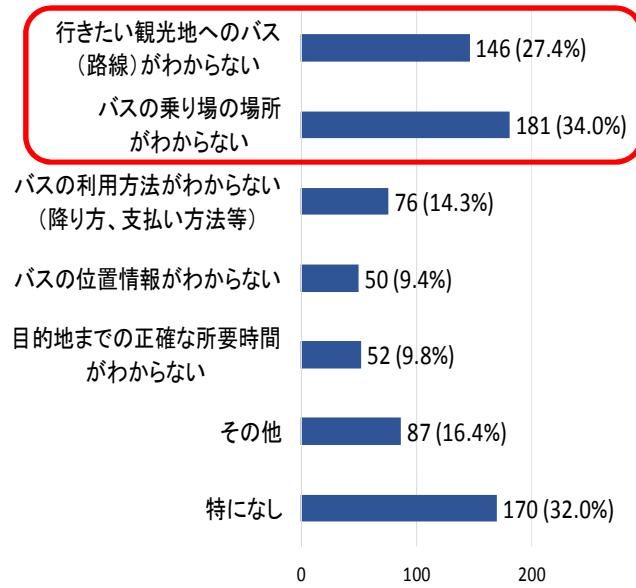


- バス利用者からは「**行きたい観光地へのバス路線**」、「**バス乗り場の場所**」に関するニーズが多い
- モノレール利用者からは、「**目的地の最寄り駅**」、レンタカー利用者からは、「**道路の渋滞状況**」に関する意見が挙がったが、**半数以上が「特になし」**であり、バス利用に関するニーズが大きい

Q. (各施設について)移動情報に関して困ったことは?

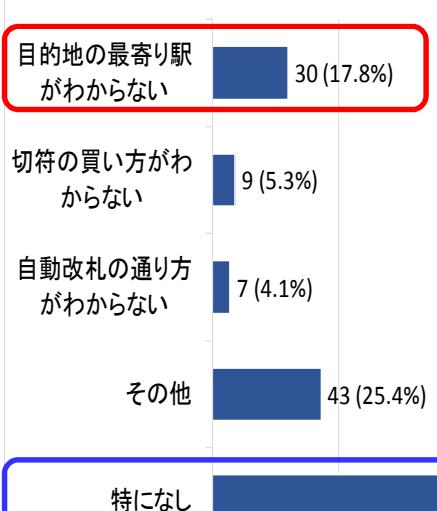
○バス利用者

全体分析 N=532



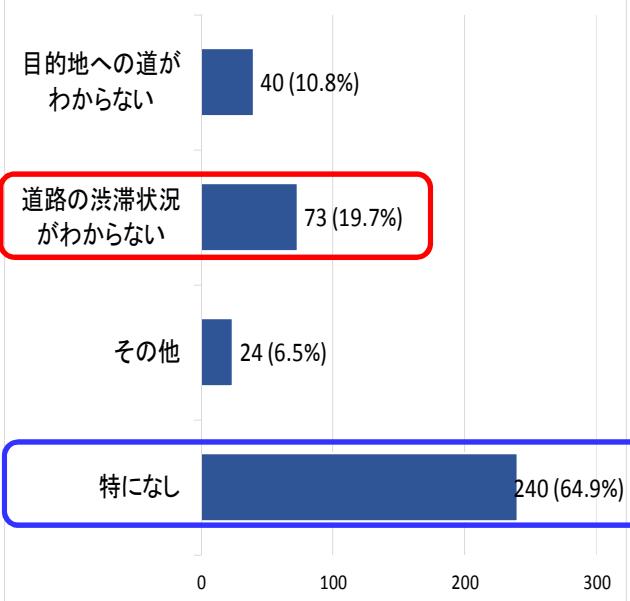
○モノレール利用者

全体分析 N=169



○レンタカー利用者

全体分析 N=370



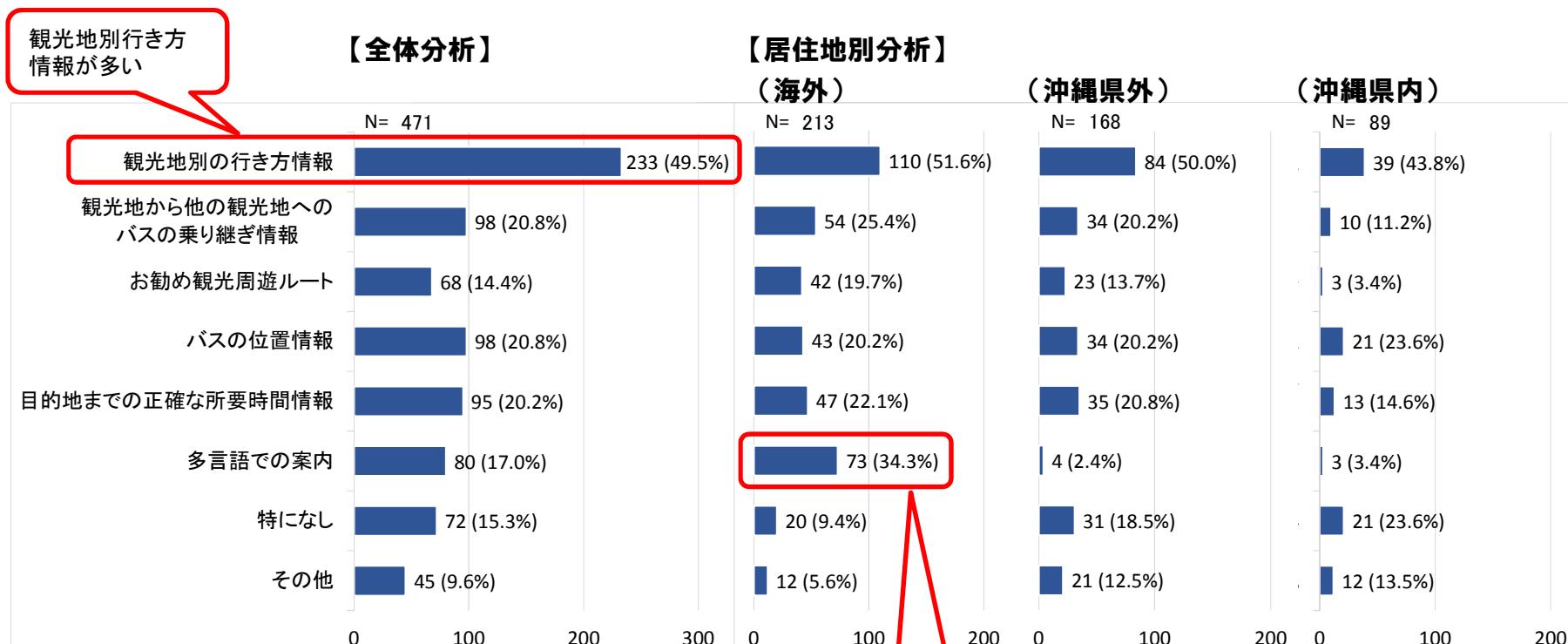
※10施設の全データでの集計結果

(%): 有効回答数に対する回答率

1. 背景 移動に関する観光客ニーズ(平常時)

- ・バス利用者が提供して欲しい情報としては、「観光地別の行き方情報」との意見が多く、次に「乗り継ぎ情報」「バスの位置」「正確な所要時間情報」など路線バスでの周遊観光に関するニーズが高い
- ・海外の方は、「多言語での案内」ニーズが高く、自国の言語での情報提供が望んでいる。

Q. (各施設について)移動支援に関して提供してほしい情報は?バス利用者のみ



※10施設の全データでの集計結果

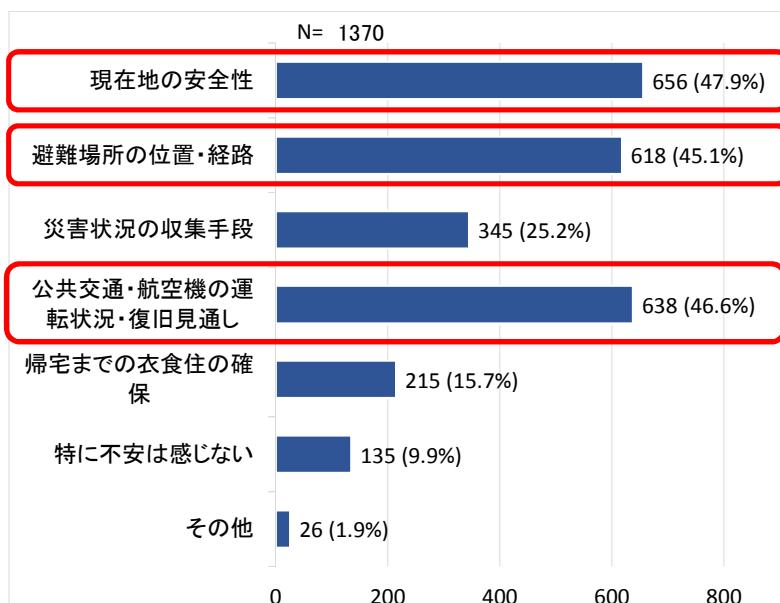
自国の言語での案内を希望

(%):有効回答数に対する回答率

- 全体傾向として、「現在地の安全性」「公共交通・航空機の運行状況・復旧見通し」「避難場所の位置・経路」に関して不安を感じている
- 居住地に応じて不安に感じる内容の傾向に違いがある

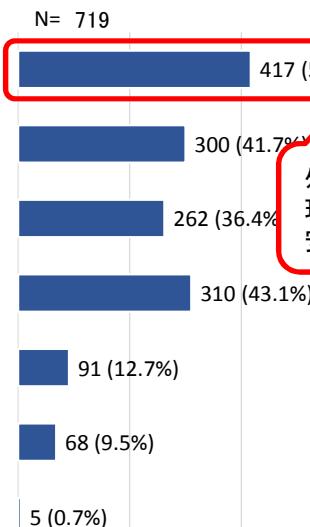
Q. 観光・移動中に地震・津波・台風など発生した場合に「不安に感じること」は？

【全体分析】

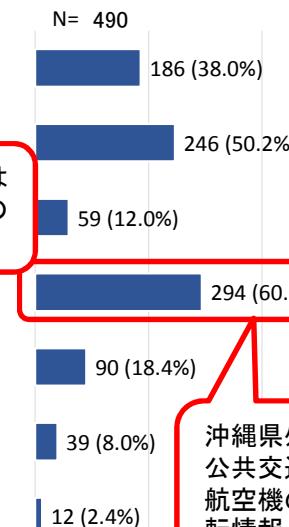


【居住地別分析】

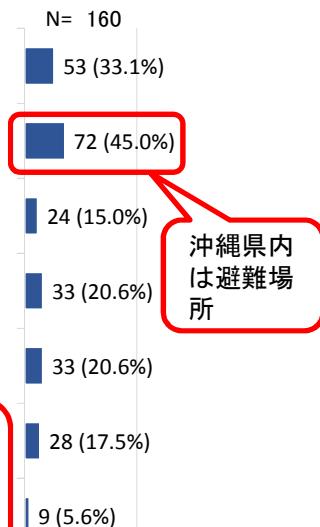
(海外)



(沖縄県外)



(沖縄県内)



※10施設の全データでの集計結果

(%):有効回答数に対する回答率

1. 背景 移動に関する観光客ニーズ(災害時)

- 津波等の恐れがある**海岸部の美ら海水族館**では「現在地の安全性」の意見が、津波等の心配のない**内陸部(高台)の首里城**では「公共交通・航空機の運転状況」との意見が、それぞれ多い
- 現地の地形(安全性)**に応じて不安に感じる内容の傾向に違いがある

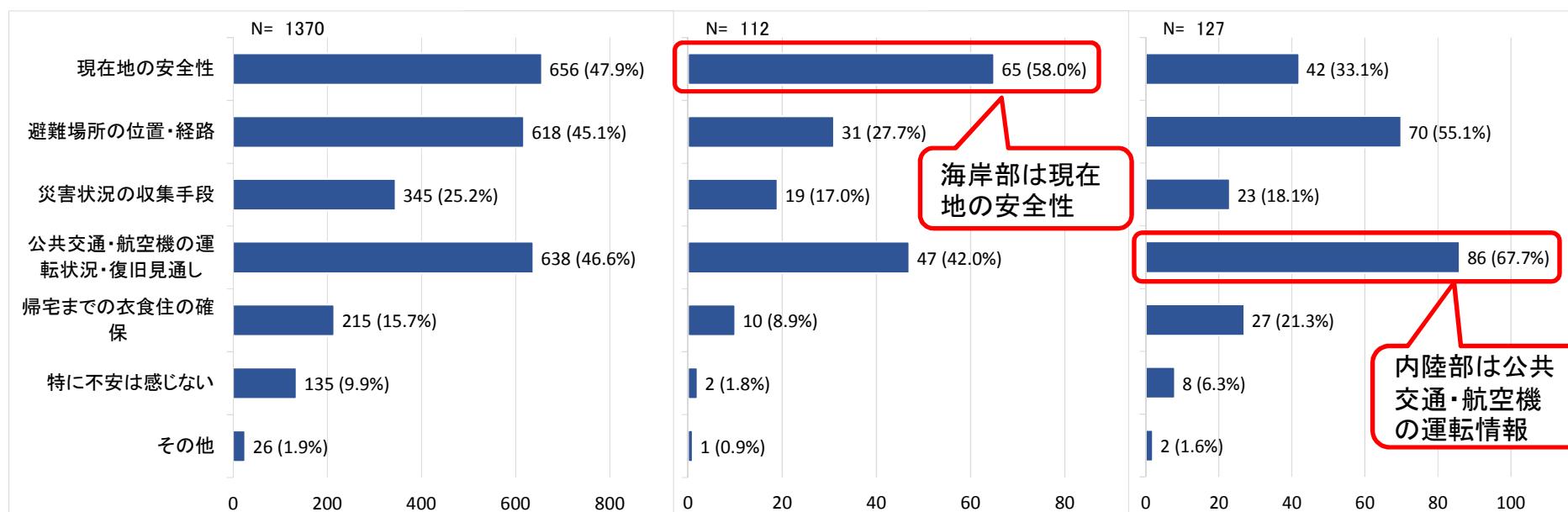
Q. 観光・移動中に地震・津波・台風など発生した場合に「不安に感じること」は?

【全体分析】(再掲)

【地形条件別分析】

海岸部:美ら海水族館

内陸部(高台):首里城



※10施設の全データでの集計結果

(%):有効回答数に対する回答率

2. 目的 わかりやすい移動支援情報提供サービスの実現に向けて

- 外国人を含む観光客の増加が予想される中、平常時には路線バス等の公共交通を活用した観光地への円滑な移動支援、災害時には安全・安心の確保に向けた支援が益々重要になる
- 移動支援により、県民の公共交通の利用促進、交通渋滞の緩和に資することも期待
- 本提言は、ICT等の新たな技術を活用した「観光客移動・防災支援情報提供サービス実験」を踏まえ、観光客の平常時・災害時の移動支援に関するニーズを満足するわかりやすい情報提供サービスの実現に向けて、必要・留意事項等の要件をとりまとめた

■提言までの流れ

H29/8~9 観光客の平常時・災害時の移動支援に関するニーズ調査



H29/9~10 観光客移動・防災支援情報提供サービス実験 公募⇒事業者選定



H29/11~12 観光客移動・防災支援情報提供サービス実験 実験実施



H30/1/25 観光客移動・防災支援情報提供サービス実験 最終取りまとめ



H30/2/22 観光客へのわかりやすい移動支援情報提供サービスの実現に向けた提言(本日)

2. 目的 実証実験の実施体制

推進事務局会議	:観光客移動・防災支援情報提供サービス実験の実施に関する調整等
アドバイザー委員会	:沖縄観光の実情や課題、最新の情報提供サービス技術等の観点から実証実験の実施・とりまとめにあたっての助言・提案

観光客 移動・防災支援情報提供サービス実験 実施体制

推進事務局(年度内2回開催)

委員:沖縄総合事務局、沖縄県

実施内容

- ①:実証実験の公募・選定
- ②:関係機関の調整
- ③:実験の確認
- ④:実験結果のとりまとめ・公表 等

選定事業者

事業者:4事業者

実施内容

- ①:実証実験の企画提案
- ②:実証実験の実施
- ③:実証実験の自主評価(任意)



アドバイザー委員会(年度内3回開催)

委員:琉球大学、豊見城市、(公社)土木学会、

(一財)沖縄美ら島財団、(一社):沖縄県バス協会、
(一社)日本旅行業協会、(一社)豊見城市観光協会、
旭橋都市再開発(株)、那覇バスターミナル(株)

実施内容

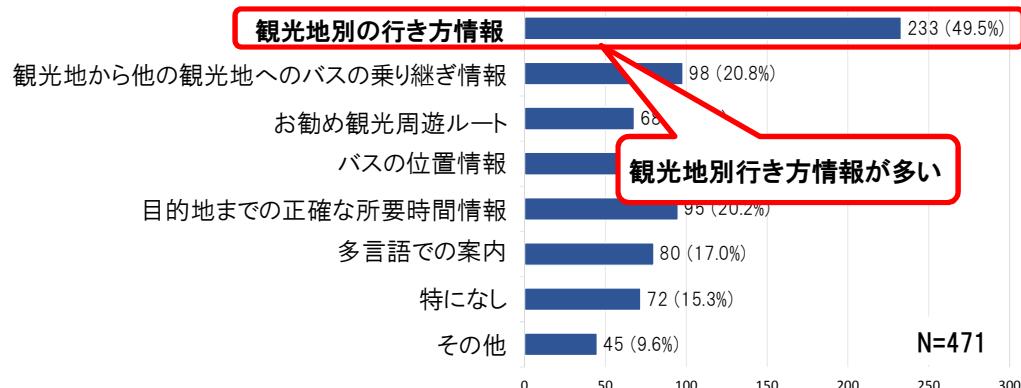
- ①下記への助言・提案
 - ・実証実験内容(方針・実施状況)
 - ・実験結果のとりまとめ方針・アンケート調査
- ②実証実験の視察および助言・提案
 - ・情報提供サービスの利便性
 - ・情報提供サービスの課題
- ③実験結果を踏まえた今後情報提供のあり方への助言・提案

3.1. 実証実験の概要 背景・目的

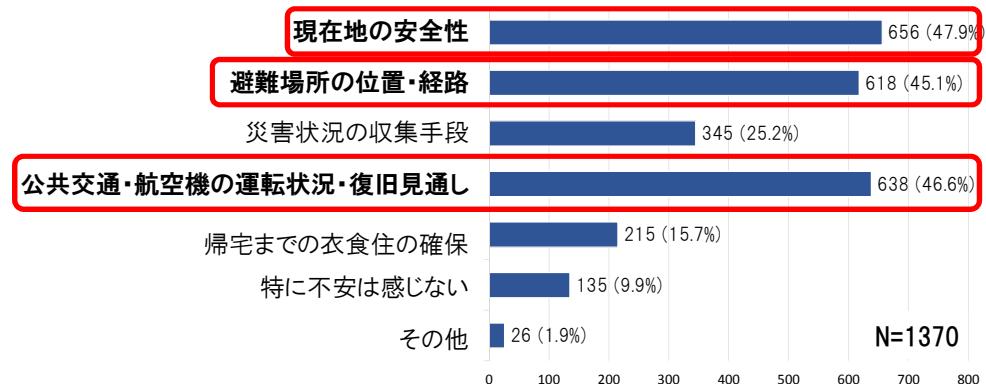
- 昨年8～9月に実施した移動に関するニーズ調査※により、平常時の観光地へのバス利用や、災害時の安全・安心確保に対応できる観光客の円滑かつ安全・安心な移動支援の必要性を確認
- 道の駅「豊崎」にて、ICT等の新たな技術を活用した訪日外国人を含む観光客の移動・防災支援情報提供サービスの実証実験を実施し、バス利用や災害時の安全・安心確保に有益な技術を検証

■移動に関する観光客ニーズ調査※結果(再掲)

Q. (各施設について)移動支援に関して提供してほしい情報は？バス利用者のみ



Q. 観光・移動中に地震・津波・台風など発生した場合に「不安に感じること」は？



■実証実験イメージ



(道の駅「豊崎」)外観



(道の駅「豊崎」)
情報館 館内



3.1. 実証実験の概要 協力事業者及び実験概要

- ・観光客移動・防災支援情報提供サービス実験の目的に賛同頂き、実証実験に協力頂ける事業者をH29/9/21(木)～10/5(木)に公募により選定(下記の4事業者)
- ・4事業者・グループの実証実験を通じて、**平常時のバス利用等による目的地までの移動や、災害時の安全・安心の確保において、有益な情報提供サービス**に関する必要・留意事項を確認

代表事業者・グループ名	実験概要	
ニーズプランニング 合同会社	<ul style="list-style-type: none">タブレット端末を活用した多言語通訳システムと多言語音声案内シートによる移動・防災支援情報の提供	
沖縄パナソニック特機 株式会社	<ul style="list-style-type: none">多機能を有する情報伝達ポールを活用した屋外での表示装置による観光地への移動支援・災害時における避難誘導支援情報の提供	
株式会社 NTTドコモ	<ul style="list-style-type: none">サイネージやスマホへ、移動支援情報や災害情報・避難経路等を多言語で表示。また、携帯電話利用データから推計したエリア滞在人数や、シェアサイクル等と合わせ、公共交通利便性向上を図り、交通行動転換をめざす	
沖縄セルラー・KDDI・ ナビタイムジャパン・ JTB沖縄・wi2共同事業体	<ul style="list-style-type: none">バスの経路検索サービスを用いた観光客の移動支援及び、「Be.Okinawa_Free_Wi-Fi」サービスを活用した観光情報発信及び防災支援情報の提供	

3.1. 実証実験の概要 聞き取り調査・アドバイザー委員会

- 通常時、災害発生時における観光客等への移動・防災支援情報を提供する際の留意点・要件を整理するため、実証実験期間中に各サービス利用者への聞き取り形式のアンケート調査(聞き取り調査)と、アドバイザーによる委員会(視察・会議)を開催

聞き取り調査 結果概要

実施日	12/2(土) 10:00~18:00 雨 12/3(日) 09:30~18:00 曇⇒雨 12/6(水) 13:00~18:00 晴 ※外国人向け調査
調査内容	各事業者のサービスを通じて、下記の事項に関する利便性・改善点を確認
調査方法	各サービスごとに調査員を配置し、被験者に サービス体験後聞き取り調査

	総数	県内	県外	外国人※	未回答者
総計(4事業者)	279	131	45	99	4
ニーズプランニング	41	4	1	36	0
パナソニック	97	57	17	21	2
NTTドコモ	84	44	17	21	2
沖縄セルラー	57	26	10	21	0

※【外国籍 詳細(総計)】 中国:32 韓国:18 台湾:14 シンガポール:8 タイ:5 その他:22 (件)

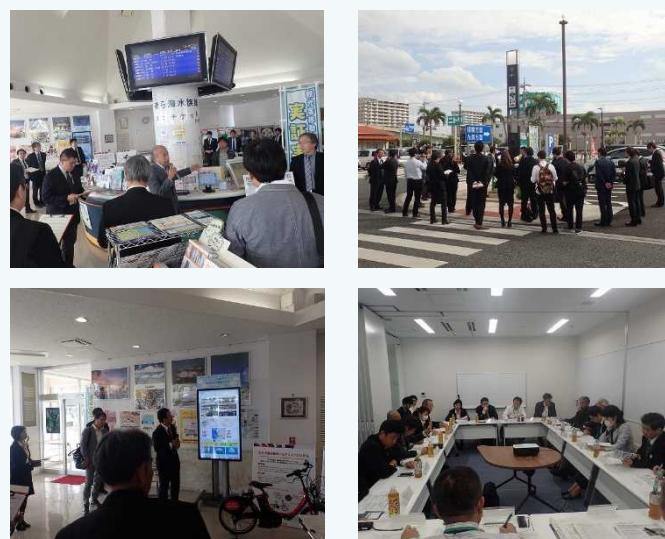
実施状況



アドバイザー委員会 開催概要

実施日	12/5(火) 13:30~15:00 観察 12/5(火) 15:00~16:30 会議
出席者	琉球大学、(一財)沖縄美ら島財団、(一社)日本旅行業協会、(一社)豊見城市観光協会、(一社)沖縄県バス協会、旭橋都市再開発(株)、那霸バスタークニナル(株)
概要	観察:ICT等を活用した移動等の支援に関する情報提供サービスを体験 会議:体験した情報提供サービスについて、利便性に関する助言・提案

実施状況



3.2. 実証実験の聞き取り調査結果(概要)

- 聞き取り調査の結果、各事業者のサービスについて、多くの体験者から、利便性が高く移動支援に役立つという意見が寄せられた
- 今後の情報提供サービスの実現に向けて、利便性・改善点に関する主な意見を整理

■実証実験の聞き取り結果とりまとめ(利便性・改善点に関する主な意見)

青字:サービスの利便性 黒字:改善項目
→○:「実証実験の取りまとめ」の必要・留意事項に反映
※丸数字は必要・留意事項の対応番号

代表事業者・グループ名	平常時の移動支援	災害時の移動支援
ニーズプランニング 合同会社	<ul style="list-style-type: none">忘れ物等、通常の発着時刻やバス停案内以外の特殊なやり取りで役立つと思う ⇒⑦対面通訳の場合、トラブルになる懸念もあるので、翻訳タイプも必要 ⇒⑧移動支援情報提供サービスと連携した仕組み構築が必要 ⇒⑩	<ul style="list-style-type: none">災害時の避難誘導との連携が不可欠 ⇒⑩
沖縄パナソニック特機 株式会社	<ul style="list-style-type: none">QRコードで情報を端末に転送できるのは良い ⇒⑩機器がランドマークの役割を担うことができると思う ⇒⑩スマホ未所持者への配慮として紙媒体での情報提供も必要 ⇒⑩画面サイズは大きくした方が良い ⇒⑩	<ul style="list-style-type: none">音声情報がわかりやすい ⇒④土地勘のない人でも安全に避難できるよう、音声や誘導灯など複数の情報提供の組み合わせが必要 ⇒④⑤海岸部など人が多い場所に整備されると便利 ⇒⑩
株式会社 NTTドコモ	<ul style="list-style-type: none">バスの路線・時刻情報等、多くの情報がわかりやすく、現在地から観光地に行くことが出来る ⇒①情報が多く複雑なので、シンプルにして欲しい ⇒①シェアサイクルは待ち時間の有効活用にも期待 ⇒③大きな画面で高齢者等もわかりやすい ⇒⑩	<ul style="list-style-type: none">災害発生時の大きな画面での情報提供・配色は多くの人にわかりやすい ⇒④TVでの情報提供はわかりやすく便利 ⇒⑥運休・復旧見通しは他の情報提供に閑わらず常時確認できた方が良い ⇒⑥外国人には色やサインでは伝わりにくい可能性があるので、文字で情報を伝えた方が良い ⇒⑧
沖縄セルラー・KDDI・ナビタイムジャパン ・JTB沖縄・wi2共同事業体	<ul style="list-style-type: none">移動情報は記号や絵・イメージの方がわかりやすい ⇒①観光情報の詳細な情報や観光地間の移動経路等がわかれれば便利 ⇒②自分の現在地に応じて案内してくれるのは便利 ⇒⑩	<ul style="list-style-type: none">プッシュ通知で情報を提供して欲しい ⇒④ネット環境に依存する他、スマートフォンが利用できない状況での情報提供にも配慮が必要 ⇒⑤

3.3. アドバイザー委員会から頂いた助言・提案(概要)

- 実証実験期間中に、各事業者の情報提供サービスをアドバイザーに体験して頂き、意見を照会
- 各事業者の情報提供サービスは概ね好評を頂いたが、運用場面・整備機器等の整理が必要
- 情報提供サービスの実装に向けて、上記を踏まえ共通の情報基盤プラットフォーム構築が不可欠

■アドバイザー委員会 助言・提案

- 各事業者の情報提供サービスを更に有益に活用するためには、場面に応じて、適切な提供内容や機器を整理することが重要 →10
- 観光客向けの防災支援の情報提供サービスは、単独ではなく、場面に応じて設置された移動支援情報提供サービスの提供機器等を援用して災害情報を提供することで、観光客への伝達向上が期待できる →4
- 事業者による有益な情報提供サービスの実装を支援するためにも、情報を収集・管理する共通基盤プラットフォームが不可欠 →9

太字:改善項目
→○:「実証実験の取りまとめ」の必要・留意事項に反映
※丸数字は必要・留意事項の対応番号

■第2回アドバイザー委員会 開催状況



実証実験の視察(屋内)



実証実験の視察(屋外)



第2回アドバイザー委員会

- 利便性の高い情報提供の実現にあたり、**平常時・災害時の移動支援に関する背景・課題**を再確認
- 平常時のバス利用、災害時の安全・安心の確保及び一元的なデータ管理**に関する課題を踏まえて、実験結果をとりまとめる

■平常時・災害時における移動支援の背景・課題

移動支援

- 観光客の移動手段のうち、**バスの利便性向上に資する情報**を求める意見多数（行きたい観光地へのバス（路線）がわからない、バスの乗り場の場所がわからない 等）。
- 観光地へのバス路線・系統等の**行き方情報**の他、バス乗り場・バス停位置等の**乗車前および降車後の案内**が不十分
- 増加する外国人観光客に配慮した多言語対応のように、**様々な利用者に移動支援情報を伝えるための対応**が必要。

防災支援

- 外国人を含む観光客は、沖縄での**災害の危険性を知らない**可能性がある。
- 災害が発生した場合、観光客を**如何に避難誘導し、帰宅させるか**が課題。
- 観光客に対して、**災害時にもわかりやすい情報提供サービス**が必要

基盤整備

- 実証実験にて、同じ情報提供でも**事業者間による内容の相違**を確認。
- 内容の相違によりサービス利用者が不利益を被らないよう、**必要最低限の情報は、事業者が常に最新のデータを収集できる**仕組みが必要。
- 必要最低限の情報を個々のデータ所有者が**個別に管理すると、データの増加に伴う管理負担増加により、登録・更新の停滞**が懸念される

3.5. 実証実験の取りまとめ

- 実験結果から、ICT等の新たな技術を有効活用することにより、バス利用に際する利便性の高い**移動・防災支援情報の提供が可能と確認**
- 実証結果を踏まえて、観光客のバス利用・災害時の安全・安心の確保に資する**利便性の高い情報提供サービスに関する必要・留意事項**を整理

■利便性の高い移動・防災支援情報提供のための必要・留意事項

移動支援

- 観光地へのバス路線・系統、バス乗り場・バス停の位置等の移動情報を、イラストや図等でシンプルでわかりやすく提供することに留意
- 観光客は、観光地(目的地)別の行き方情報を含む移動情報に加えて、観光施設や周辺・周遊情報等も必要
- シェアサイクル等二次交通による待ち時間有効活用の期待

防災支援

- 発災・緊急避難誘導には、音声・プッシュ通知・画面等を組み合わせたわかりやすい情報提供が必要
- 高齢者・外国人等、誰にでもわかる情報提供に留意
- 復旧・復興期には、被災した観光客等が安心して過ごすためにも公共交通・航空機等の運休・復旧見通し等が重要

共通機能

- (外国人対応)
- 主要交通結節点等、外国人に対応する機会が多い場所では、忘れ物・急病等の複雑な対応を支援する通訳機能等も必要
 - 文字等の多言語化の他、文化間の表現・認識の違いにも留意

(共通基盤機能)

- ニーズの高い情報提供サービスの実装を支援するためには、共通基盤プラットフォーム(PF)(仮)構築が不可欠
- 出発地・経由地・目的地の場面や、高齢者等の属性に応じて、適切な内容の支援情報および提供機器の整備・連携が必要

■わかりやすい情報提供サービスの実現に向けて3提言

提言Ⅰ:場面・属性に応じた提供情報・活用機器の整備

- 観光客等のバス利用者が安心して円滑に移動できるよう、目的地までの一連のツア－情報を様々な場面や多様な属性に応じて適切に情報を提供する。
 - ・出発地、経由地、目的地の各場面でのバス路線、バス乗り場・バス停等の提供方法
 - ・外国人、高齢者等の各属性別提供手法
 - ・留意事項:紙媒体等、手荷物一時預かり等

切り替え



提言Ⅱ:災害からの安全・安心確保に向けた情報提供サービスの連携

- 観光客等の安全かつ迅速な避難、帰宅までの不安軽減に向け、発災から復旧までの各段階に応じて平常時の情報提供サービスを活用し情報を提供する。
 - ・平常時のICT機器を活用した発災、避難、復旧・復興の各場面での情報提供
 - ・事前周知など、発災前の配慮
 - ・留意事項:従来型サイン整備との連携等

提供



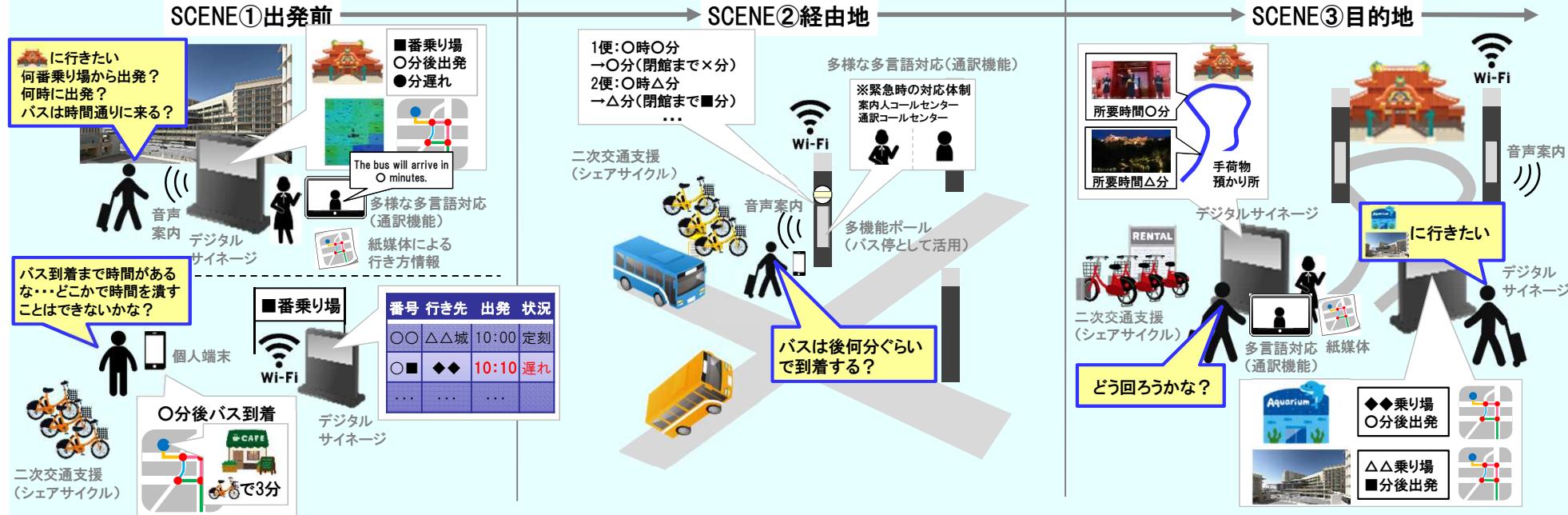
提言Ⅲ:利便性の高い移動支援情報提供サービスの実現に向けた共通基盤整備

- 平常時・災害時の情報提供サービスの実現に向け、提供する情報の精度の均一化が図れるよう情報を一元的に集約できる基盤の整備が求められる。
 - ・平常時・災害時に公共性の高い移動支援情報を継続的に収集・提供する共通基盤のあり方
 - ・平常時・災害時における公共性の高い移動支援情報
 - ・留意事項:オープンデータ化、関係機関との連携等、共通基盤の実現に向けた取組み等

■平常時における移動支援のための情報提供サービスのあり方 ⇒提言 I

I

場面・属性に応じた提供情報・活用機器の整備

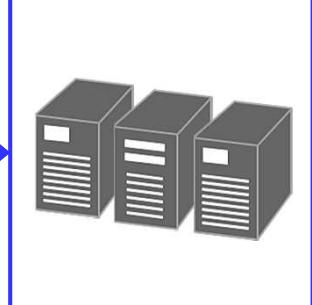


III

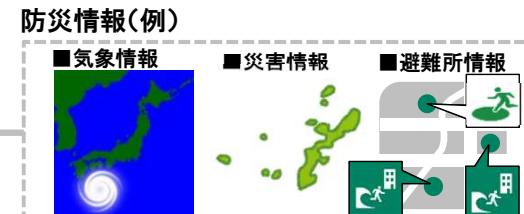
利便性の高い情報の基盤整備



共通基盤(仮)



観光情報(例)

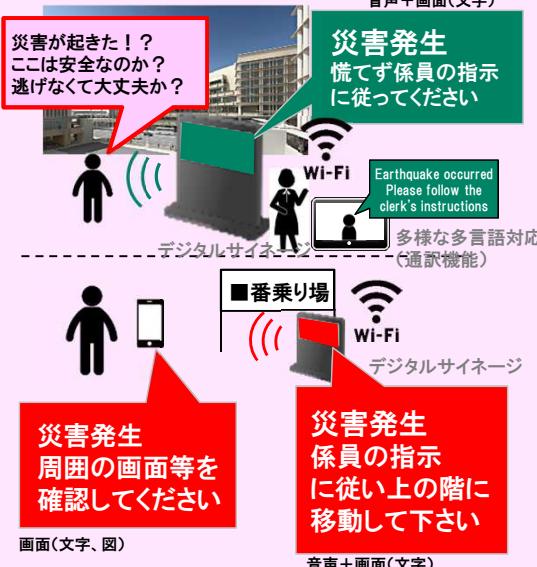


■災害時における移動支援のための情報提供サービスのあり方 ⇒提言 II

II

安全・安心確保に向けた情報提供サービス連携

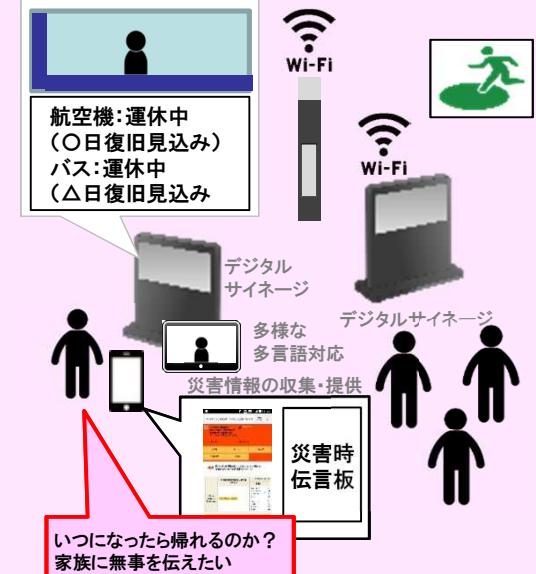
Case① 発災直後(主要交通結節点等)



Case①' 発災直後(経由地等※無人箇所)



Case② 発災経過後(避難所等)



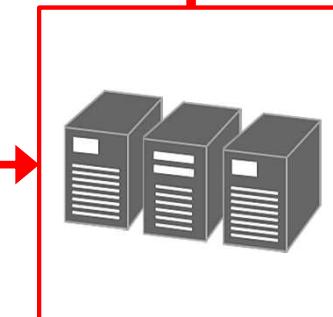
III

利便性の高い情報の基盤整備

移動情報(例)



共通基盤(仮)



観光情報(例)

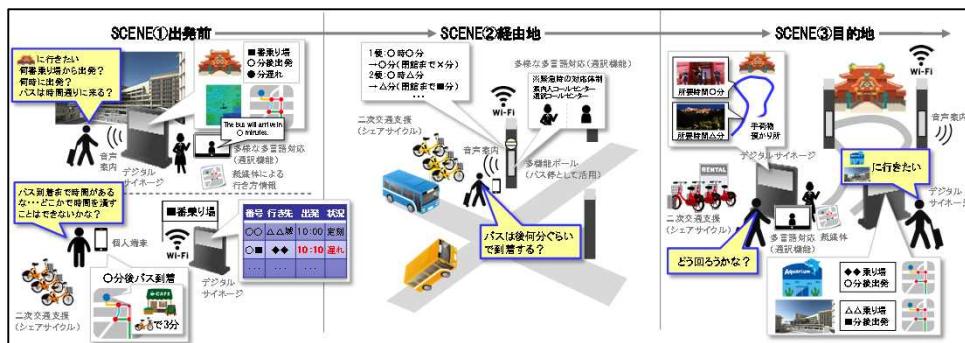


防災情報(例)



■平常時・災害時に利便性の高い移動支援情報提供サービスを実現するための共通基盤のあり方 ⇒提言Ⅲ

I 場面・属性に応じた提供情報・活用機器の整備



II 安全・安心確保に向けた情報提供サービス連携

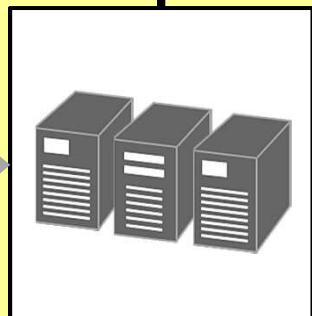


III

移動情報(例)



共通基盤(仮)



観光情報(例)



防災情報(例)

